

韓国ハルラ山山行報告

【山行日】2017年 5月 19～21日(金～日)

【集 合】野木町役場P AM 5:50

【費 用】マイカー1台 : 約75,000円

【メンバー】岩淵、小松原、島田、鈴木、渡辺

19日 晴、成田空港から済州空港へフライトし、海岸のオルレハイキングを楽しむ。

野木町役場 P5:50＝成田空港 7:35/9:45→済州空港 12:25＝ホテル済州ニュークラウン 12:50/13:30＝オルレ第 14-1 コースハイキング 14:00/16:00＝ニュークラウン 16:30

栃木県連海外登山に参加し、韓国の最高峰「ハルラ山」に山人クラブの5名がチャレンジした。

野木町役場を5:50に出発し、予定通り7:35に着く。今年4月、圏央道の境古河IC とつくば中央IC 間が開通し、飛躍的に便利になった。ツアー会社のエヌオーイーで受付を済ませ、チェックインカウンターに行きチェックインと手荷物預けの手続きを済ませる。先に来ていた K 野さん達と合流し手荷物検査や



出国手続きを済ませ搭乗口に向かった。出発15分前に搭乗開始し、予定時間通りに出発した。

フライトコースが日本アルプスを横断するため、中央アルプスや北アルプス、白山等々が上空から俯瞰出来、K 原さんは大興奮で写真を撮っていた。

予定通り済州空港に着き、ツアーガイドの張さんに案内されホテル済州ニュークラウンに着く。

各部屋に分かれて荷物を整理し、13:30にホテルを出発しオルレに向かう。

済州オルレとは、済州島を歩いて一周できるウォーキングコースを云う。「オルレ」とは済州の方言で、道から家まで続く路地を意味する。コース道順は道



路や堀に書かれた矢印や、木や街灯に結び付けられたリボンで示されているので、オルレを初めて歩く人でも迷うことは無い。青色の矢印やリボンは順方向で、オレンジ色の矢印やリボンは逆回りになる。今日は第14-1コース(17km)の一部を歩く予定だ。出発地点のチョジまでタクシーで行き、時間を決めて歩ける所まで行くことにする。

出発して直ぐに1人いなくなったり、マンゴージュースを飲んで休んだり、超緩い感じでスタートした。海岸沿いに道路を歩いて行き、途中から矢印に導かれ小道を歩くようになる。モニュメントやのろし台跡などの見どころがあり、楽しく歩くことが出来る。海を見ながらの緩やかな起伏のコースは、お話をしながら爽快な気分で歩け疲れも感じない。ところが2時間位歩いたところで、「ここからホテルに戻ります」と道路の反対側にあるホテルでタクシーを手配してもらおう。ホテルの庭のベンチで待つと、10分くらいでタクシーが到着しホテルニュークラウンに



戻った。夕食に出かける時間まで、1時間以上あるので部屋で休んで過ごす。17:40約束の時間通り迎えのバスに乗り、海鮮料理店に向かった。今宵のディナーは海鮮料理で、新鮮な刺身が大皿に盛ら

れ、ビールやマッコリー酒を飲みながら美味しくいただく。ヒラメやタイなど日本のお刺身と変わりなく、とても美味しくいただいた。締めは海鮮鍋で、大きな鉄鍋に魚や野菜がふんだんに入り、塩味のさっぱりした味でご飯が進む。最後は鍋にご飯を入れて、おじや風にしていただいた。お腹いっぱいになったら、バスでホテルに戻る。途中、スーパーで降りてもらい、明日の朝食と昼食を買って歩いてホテルに戻った。部屋に戻り明日の登山の準備をし、登山に備えて早めに就寝した。

20日 晴、城坂登山口からハルラ山山頂に登り、観音寺コースを下って観音寺登山口へ下山する。
ニュークラウン 6:00=城坂登山口 6:20/6:40~サラ待避所 8:30~チンダルレパツ待避所 9:30/9:50~ハルラ山頂 11:20/12:05~ヨンジンカク待避所 13:45/14:05~タンラケゴク山小屋~赤十字待避所 15:00~観音寺登山口 16:30=ニュークラウン 17:00

今朝は6時にタクシーが迎えに来る予定なので、4時30分に起床しシャワーを浴びて朝食を摂る。



昨夜スーパーで買った韓国のパンは、少し変わった味でありあまりおいしく無かった。時間通りタクシーが来て、3台に分乗し城坂岳コースの登山口に向かった。城坂岳コース登山口には立派な公園管理事務所があり、売店やトイレが併設され多くの登山者で賑わっていた。トイレとストレッチを済ませ、登山口で記念写真を撮り出発する。山想会班と山人班の2班に分かれて出発し、我々山人班には森氏が加わった。最初は広い緩やかな登山道を登って行くが、韓国の登山者は最初からハイペースで歩き、ドンドン追い越されてゆく。250mごとに距離を示した表示板があり、標

高100mごとに標高が記され、現在地が解るようになっている。周りの植生は日本の山と同じで、九州の山々の草木とほとんど変わりが無かった。2時間弱でトイレや休憩所があるサラ待避所に着き、果物や菓子を食べエネルギーを補給する。

大勢の登山者に抜かれたが、サラ休憩所にはたくさんの登山者でごった返し、あらためて人気の山だと実感した。ここから先は少し傾斜がきつくなり、木の階段や木道歩きが多くなる。樹相が灌木帯となり、チンダルレと言われるミヤマキリシマのようなツツジの花が咲く高原に出ると、間もなくチンダルレパツ待避所に着く。ここには売店や食堂、トイレがあり、多くの登山者が休憩していた。建屋の周りは木のテラスや柵が張り巡らされ、ツツジなどの植



生が守られている。女性達が登山口で買った寿司を食べて空いたお腹を満たし、記念写真を撮って出発する。ここから先は広い木道や木の階段を歩くようになり、森林限界を超えて見晴が良くなる。

チンダルレの群落が広がり、ピンクの花があざやかだったが、時季的に早く3分咲くらいである。溶岩台地に咲くツツジの先には、遠く東シナ海に浮かぶ島々が見えていた。

山頂が近づくに連れ傾斜がきつくなり、途中で追い越された人々を追い越してゆく。山頂まで15分くらいのところで、森さんから「後ろの班を待って一緒

に登ろう」と提案があり木道の脇で待つことにして休憩する。

15分ほど待っても来ないので、体が冷えてしまうので先に山頂へ向かうことにした。山頂まで木の階段が続き、山頂も木製のテラスが4段くらい張り巡らされている。11時過ぎにハルラ山山頂に着き、後続



の5人が着くのを待って記念写真を撮る。山頂は多くの登山者で賑わっており、テラスに弁当を広げて昼食を食べていた。我々も岩場の一角に陣取り、各々が持参した昼食を美味しくいただいた。

昼食後山頂からの景色を撮り、北に向かって観音寺コースを下山する。観音寺コースは北側なので、景色や樹相がまったく変わり、溶岩と針葉樹が織りなす険しい山容が広がっていた。溶岩と柵のような灌木帯の中を、相変わらず木道と木の階段で降りて行く。下り始めて40分でヨンジンガン山小屋跡に着き、休憩する。

以前は山小屋が建っていたそうだが、豪雨による

土石流で流されたようだ。ここからさらに下ると渓谷を大きな橋で渡り、渡った先に水場がある。水場から登り返し少し下ると、タンラケゴク山小屋があり休憩舎とトイレがある。ここで大休止しミカンや菓子を食べ、疲れた足を休めることが出来た。地元の若者が話しかけて来て、大きなサクランボを勧めてくれた。1個食べると「もっと、もっと」と勧められ5個もいただいた。

ここからは山道を降りて行き、赤十字避難所で最後の休憩を取り観音寺登山口に着く。

後続の5人を待ち、K野氏に迎えのタクシーを聞くと「連絡が取れないので現地であつかまえて」との事。現地で待機しているタクシーと交渉し、ホテルまで戻り夕食に出かける準備をする。

今宵のディナーはカルビ焼肉1.5人前とボリュームがありそう。時間通りに迎えのバスに乗り込み、焼き肉店に向かった。

焼き肉店は大きな店で、観光バスが何台も止まり地元客の車もすごい数だった。焼き肉も豪快で、大きな肉を焼き網に載せ、網の上でハサミで肉を

切り分ける。焼けた肉は、焦げないように速く食べるとせかさされ忙しい。ビールを飲む合間に、肉をサンチエに巻いて頬張りビールで流し込み、アツと言う間に終了した。お腹いっぱいになったが、なんとも忙しい夕食だった。夕食が済んだらホテルに戻り、ホテルの部屋で山人の5人で小宴会を行った。

皆さんあまり飲まないのので、9時過ぎにお開きにして明日に備えて床に就いた。

21日 曇り後晴れ 済州島南岸をオルレハイキングし、済州民俗村、城山日出峰を見学後済州空港から成田空港へフライトし野木町役場から各自帰宅
ニュークラウン 7:00=オルレスタート地点 8:00~
オルレゴール地点 10:00=済州民俗村 10:30/12:00
=食事処 12:10/13:00=城山日出峰 13:30/15:00=
済州空港 15:30/18:00→成田空港 20:10/20:30=
野木町役場 P22:00



朝5時30分に起床し、各自朝食を食べて帰る準備をする。今日はオルレハイキングと島内観光し、済州空港から成田空港に帰る予定。予定通り7時にホテルを出発し、済州島南岸のウエドルグに向かう。

1時間程で出発地点の駐車場に着き、トイレを済ませて歩き始める。オルレコースの案内に従って歩き始めると、直ぐに海岸の展望台に出て記念写真を撮る。海岸沿いに整備された道を歩いて行くと、孤立岩(ウエドルグ)展望台に着く。ウエドルグは周囲10m高さ20mの岩塔で、「漁から帰ってこない爺さんを待っているうちに、お婆さんが固まって岩になった」という言い伝えがあるそうだ。ウエドルグをバックに記念写真を撮り、さらに進むと韓ドラ「チャングムの誓い」のロケ地に出た。女性はチャングムの姿の像に顔を出し、記念写真を撮る。公園のように整備された道をのんびり歩き、途中アワビやナマコを焼いて食べさせる露店やジュースの売店などがあり、何も持たずに気楽に歩ける。1コースを歩くと駐車場とトイレがあり、ここからさらに次のコースへ進んでゆく。住宅街から広い道路を歩き、海岸に向かって降りて行くと川を飛び石で渡り海岸を歩くようになる。海辺の砂浜や岩の間の道を通り、ジャングルのような樹林を抜けると小さな港に出て、ここが2コースの終点となりバスが待っていた。全コース13.5kmのコースだが、



時間の都合で半分の7kmを歩いてきた。

ここからバスで済州民俗村に向かい、民俗村を観光する。昔ながらの茅葺屋根の集落が保存され、現在も住民が普通の暮らしをしているようだ。

不便な暮らしを強いられるので、国から助成金が支給されるようだ。この案内のおばちゃんがとてもおもしろく、日本語で説明するが下ネタを交えて面白おかしく説明し、皆腹を抱えて大笑いしていた。

最後は「冬虫夏草」や「馬のプラセンタ」のお土産販売になり、皆さん高価なお土産を買っていた。

少し先の食事処で昼食になり、石焼ビビンバと韓国チジミはとても美味しくいただいた。このマッコリー酒

は、粟で造ったマッコリー酒でコクがありとても美味しかった。昼食が済んだらバスで移動し、世界自然遺産「城山日出峰」へ観光に向かう。城山日出峰は10万年前の海底噴火によって出来た巨大岩山であり、済州島を代表する景勝地の一つ。海拔180mの山頂まで階段が設けられ、山頂からの眺望は最高。入口で記念写真を撮り、山頂めざし登ると K 野さんはマッコリー酒を飲んだのでパス。

S 田さんもすぐにリタイヤし9名で山頂を目指す。森さんと K 倉さんがハイペースで先行し、山人の4名が後を追いつつ20分足らずで山頂に着いた。後続も山頂に着き、山頂で記念写真を撮り下山する。途中から展望台に向かい、牛島をバックに記念写真を撮ってバスに戻る。バスに戻ると皆バラバラで、コーヒーを飲みに行ったりお土産買に行ったりで誰もいない。我輩もアイスクリームを買い、皆が来るまで待つことにする。時間になると皆戻って来て、予定通り出発する。空港に着く前に買い物をする予定になっていたが、簡単にカットされ空港へ向かう。早目に空港に着き、搭乗手続きを済ませ空港の売店でお土産を購入する。済州空港を予定通り出発し、定刻通りに成田空港へ到着した。手荷物を受け取ったら駐車場へ TEL し、4F 出発ロビーで車を受け取り野木町役場に向かう。成田空港からも順調に走り、予定通り22時に野木町役場に到着し解散した。

